

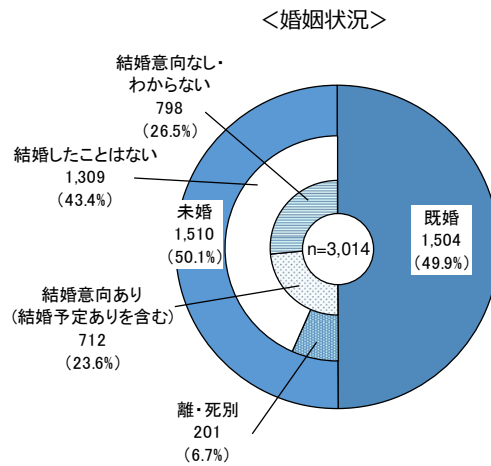
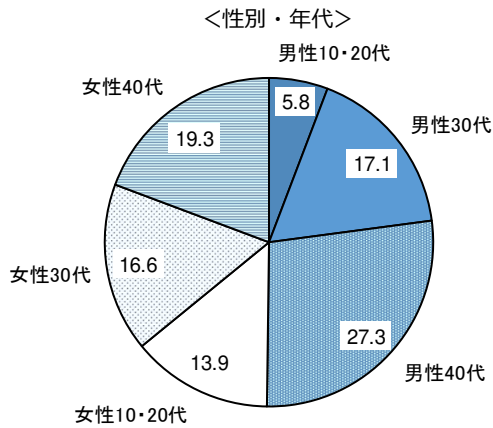
# 令和6年度長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

## 調査方法等

県民文化部こども若者局次世代サポート課

調査方法	インターネット調査
調査対象	以下の条件に該当する者を、ネットモニターより抽出 ・性別・年齢：18～49歳男女 ・居住地域：長野県 ・長野県の性・年代構成に可能な限り近くなるように回収を行う。
有効回収数	3,014
調査実施時期	令和6年7月5日～令和6年7月16日

## 回答者基本属性



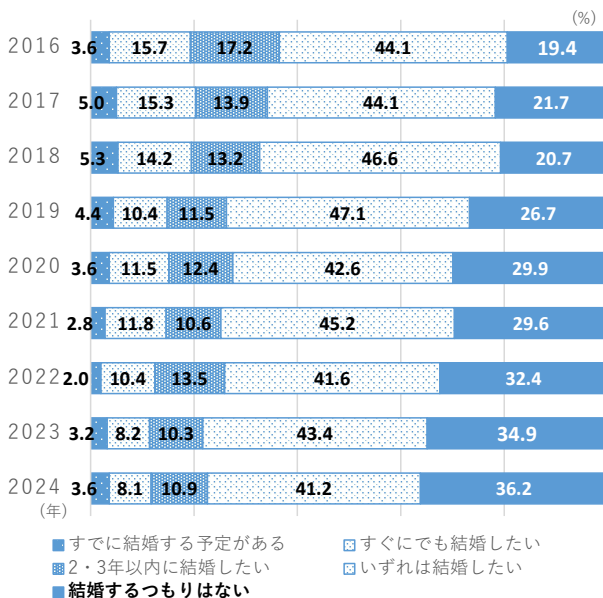
1

# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

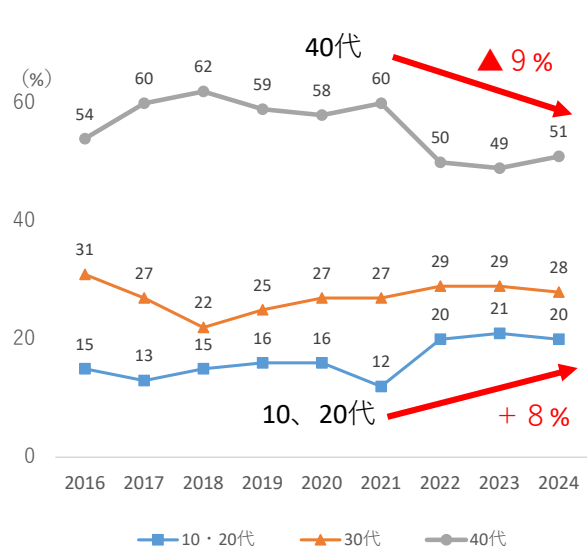
## 【結婚】

- 独身者のうち「結婚するつもりはない」と回答した者が2016年の19.4%から2024年の36.2%に16.8ポイント増加しており、独身者の結婚意向の低下が見られる。
- 結婚意向のない独身者の各年代の推移は、近年では40代が減少傾向にある一方で、10、20代において増加傾向にある。

独身者の結婚意向



「結婚するつもりはない」の各年代の割合の推移



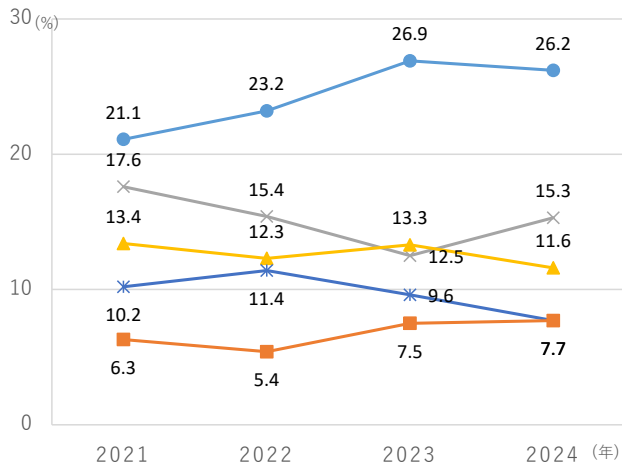
2

# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

## 【結婚】

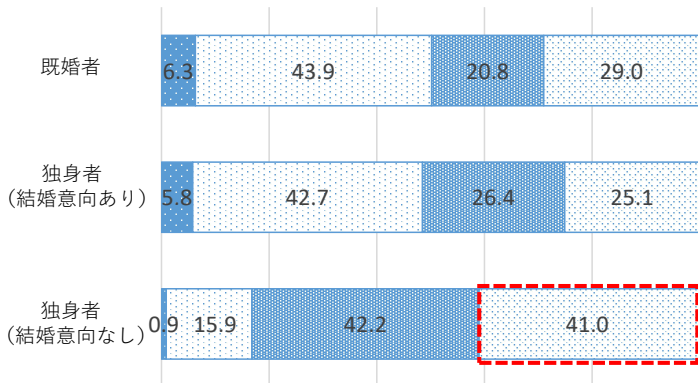
○結婚意向のない者の独身でいる理由は、「そもそも結婚願望がないから」、「結婚する必要性を感じないから」の順に高い。  
 ○また、結婚意向のない独身者は、他の属性に比べ、結婚を「メリットとデメリットを比較したうえで判断するもの」と捉えている傾向にある。

結婚意向のない者の独身でいる理由



● そもそも結婚願望がないから  
 × 結婚する必要性を感じないから  
 ▲ 独身の自由さや気楽さを失いたくないから  
 ※ 今の生活で十分幸せだから  
 ■ 結婚生活を送るには年取が少ない、または結婚資金が足りない  
 ※ 「最大の理由」として回答されたものを集計

結婚についての考え方 (2024年)



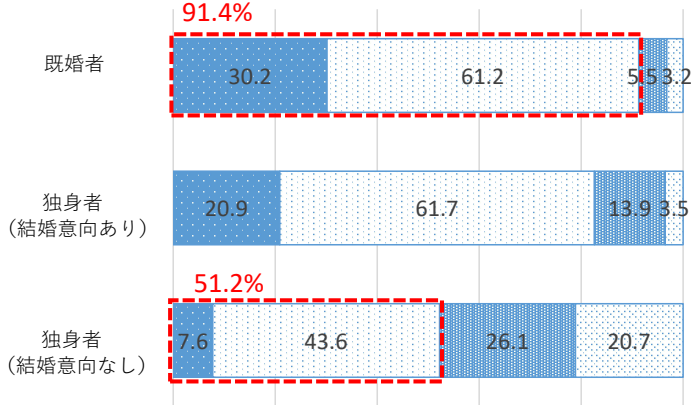
■ 結婚は、当然すべきものだと思う  
 □ 結婚は、したほうがいいものと思う  
 ■ 結婚は、しなくてもよいものと思う  
 □ 結婚は、メリットとデメリットを比較したうえで判断するものだと思う

# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

## 【結婚】

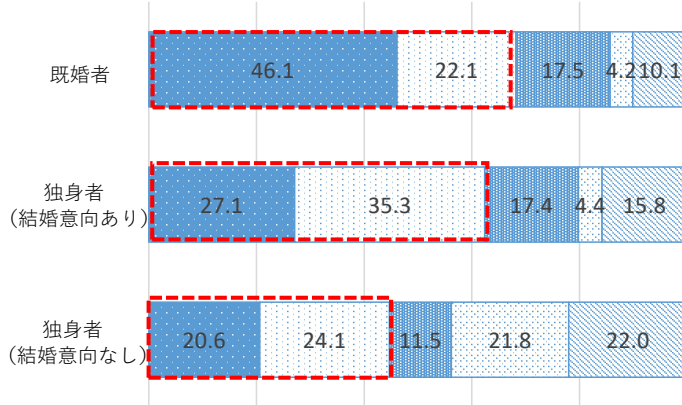
○結婚に対するイメージとしては、既婚者の91.4%が結婚すると、幸せになるイメージがあると回答した一方で、結婚意向がない独身者は51.2%にとどまっている。  
 ○また、結婚の良さ、楽しさについては、結婚意向のない独身者は、他の属性に比べ「子どもや家族を持てる」、「好きな人と家族として一緒に暮らせる」ことを良さ、楽しさとして認識していないことから、結婚に対しポジティブなイメージが低いことがわかる。

結婚に対するイメージ (2024年)



■ 結婚すると、幸せになるイメージがある  
 □ 結婚すると、どちらかという幸せになるイメージがある  
 ■ 結婚すると、どちらかという不幸になるイメージがある  
 □ 結婚すると、不幸になるイメージがある

結婚の良さ、楽しさ (2024年)



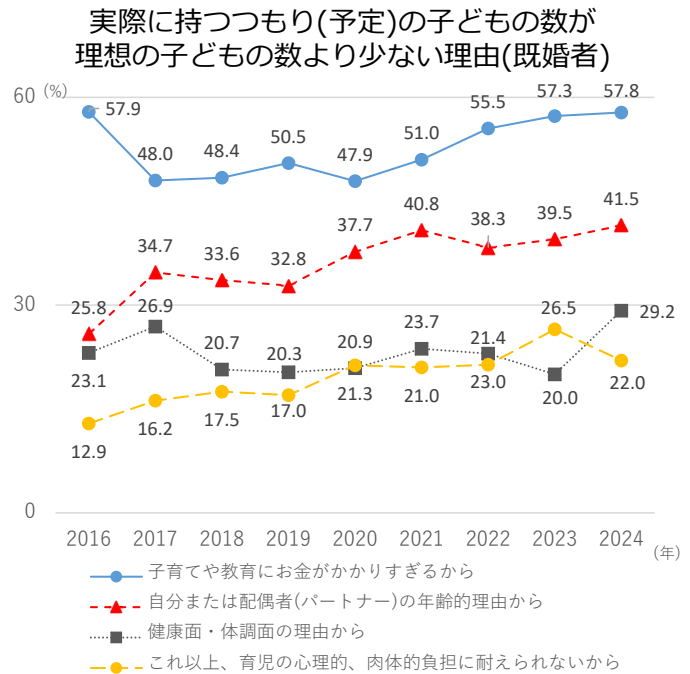
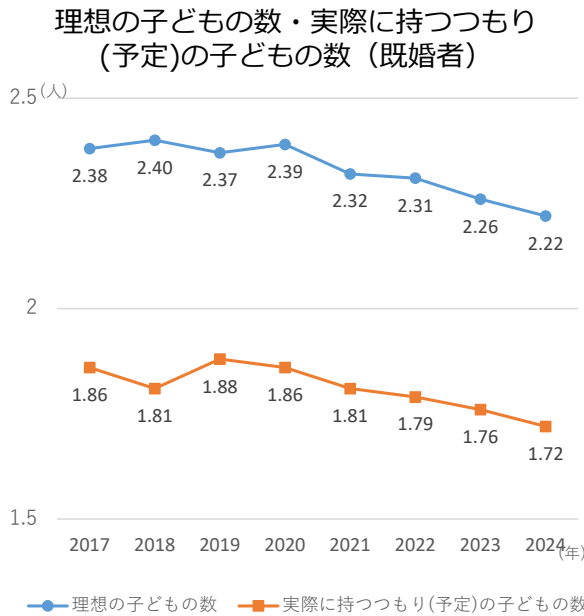
■ 子どもや家族を持てる  
 □ 好きな人と家族として一緒に暮らせる  
 ■ 精神的な安らぎの場や支えが得られる  
 □ 結婚の良さ、楽しさはないと思う  
 □ その他

※ 「最大の理由」として回答されたものの上位4項目を記載

# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

## 【出産・子育て】

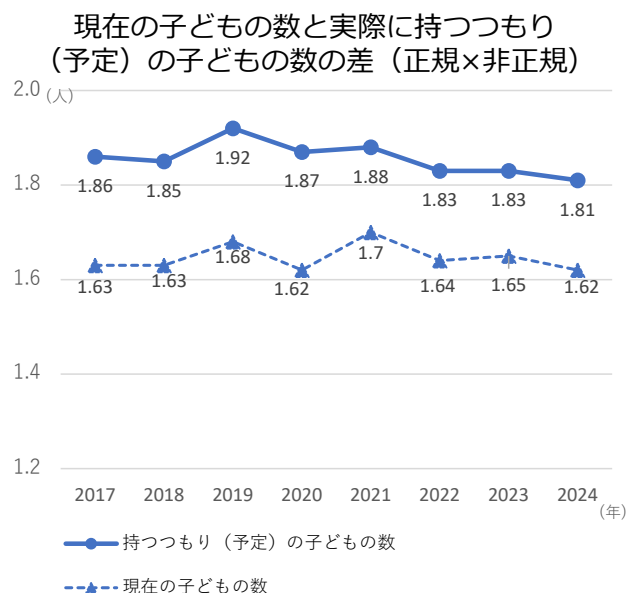
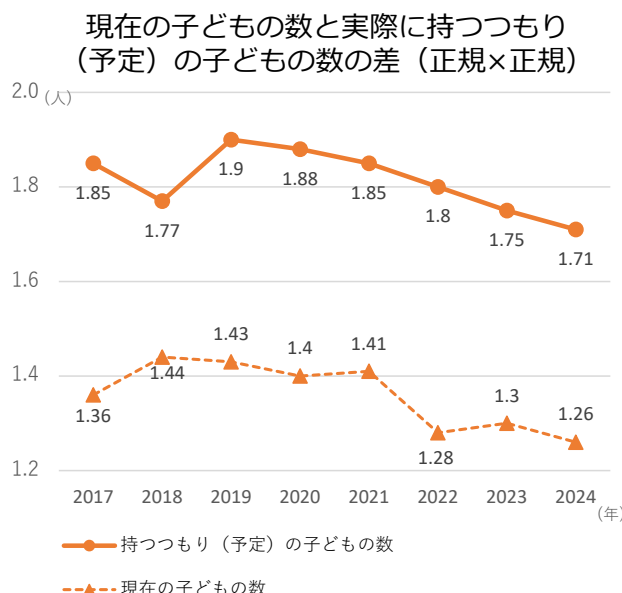
- 既婚者の理想の子どもの数、実際に持つつもり(予定)の子どもの数ともに低下傾向にあり、結婚しても子どもを持つ意欲が徐々に低下してきていると考えられる。
- 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が一貫してトップの理由となっており、子育ての経済的負担が子育て世代に重くのしかかっていることが分かる。



# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

## 【出産・子育て】

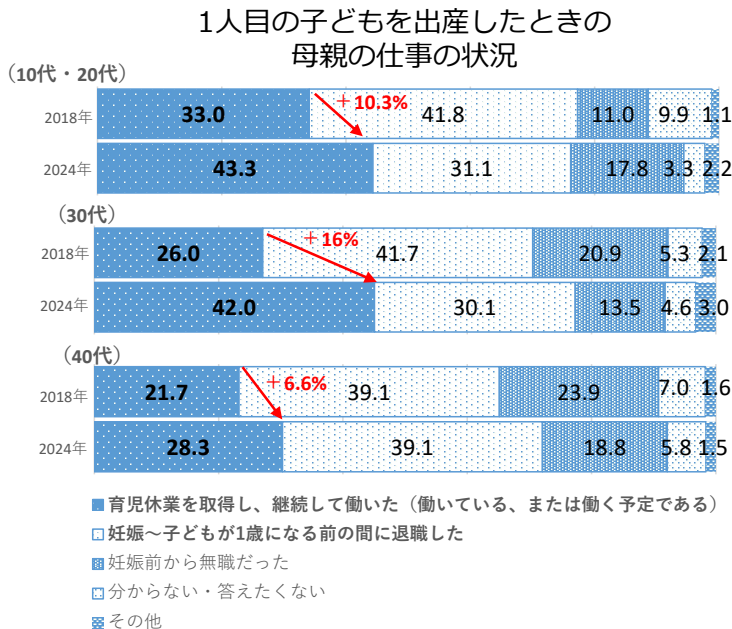
- 既婚者のうち、共働き(正規×正規)世帯は現在の子どもの数と持つつもり(予定)の子どもの数、いずれも下降傾向。それぞれの乖離幅も大きい。
- 共働き世帯(正規×非正規)は現在の子どもの数と持つつもり(予定)の子どもの数、いずれも横ばい傾向。それぞれの乖離幅は小さい。



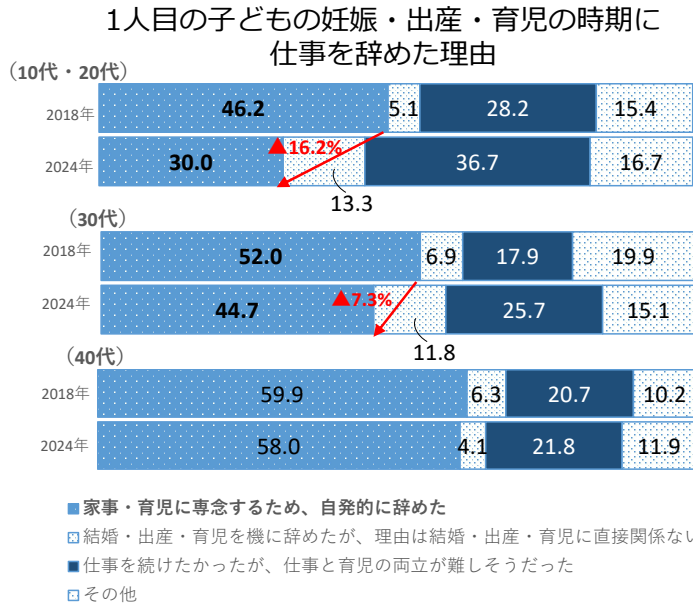
# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

## 【出産・子育て】

- 1人目の子どもが生まれた時の母親の仕事の状況は、2018年と比べ、育児休業を取得して働き続けている割合が全世代で増えており、若い世代では退職する割合は減少※<sup>1</sup>している。
- 退職理由は2018年に比べ、「仕事と育児の両立が難しそうだった」と回答した人の割合が増えている※<sup>2</sup>一方、「家事・育児に専念するため、自発的に辞めた」と回答した人の割合は、若い世代を中心に減少している。



※<sup>1</sup> 退職した人（実数）も、2018年に比べ減少している（2018年：667人、2024年：475人）



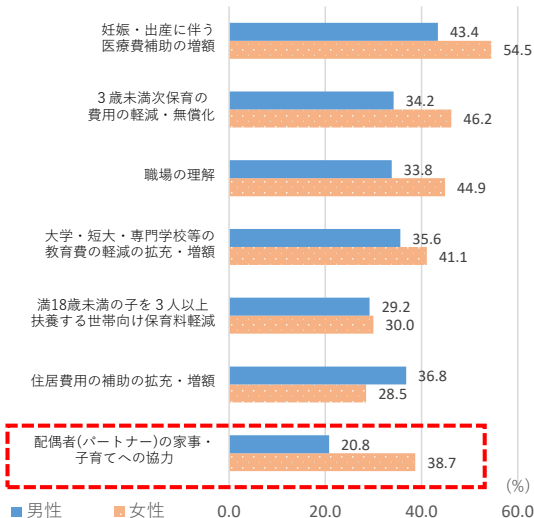
※<sup>2</sup> 「仕事と育児の両立が難しそうだった」ことを理由に仕事を辞めた人の割合は全世代（合計）で増加しているものの、合計の実数では減少している（2018年：134人、2024年：114人）

# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

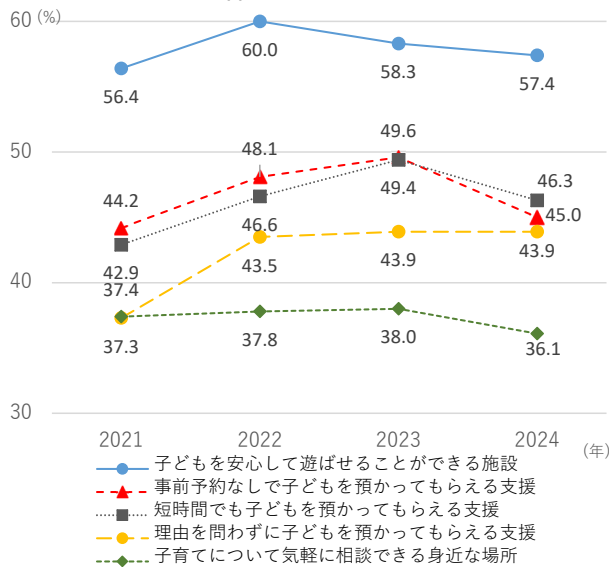
## 【出産・子育て】

- 既婚者に対して第2子以上を出産して育てていくために必要なものとして、「配偶者(パートナー)の家事・子育てへの協力」を求める割合が男女間で大きく乖離している。
- 家庭保育者が求める支援は、「子どもを安心して遊ばせることができる施設」が最も高いが、「子どもを預かってもらえる支援」が増加傾向であり、家庭保育の負担感が増している可能性がある。

2人、3人と出産し、育てていくために必要だと思うこと（既婚者）(2024年)



家庭保育者が求める支援



# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

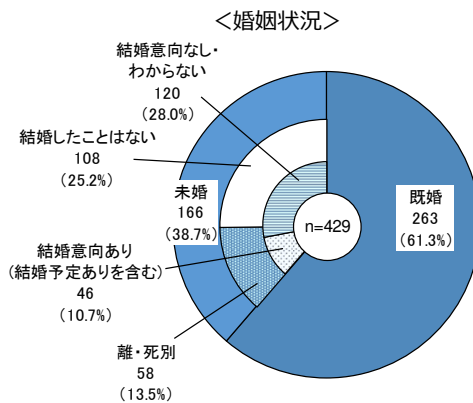
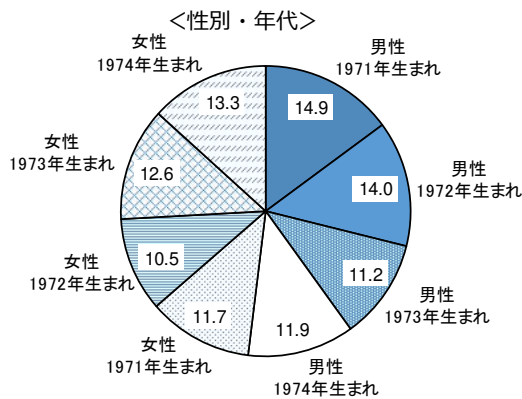
## 【第2次ベビーブーム世代】

【趣旨】第2次ベビーブーム世代の現在の悩みや幸福感、将来への不安などを調査し、今後の少子化対策の検討に活用するため。

### 調査方法等

調査方法	インターネット調査
調査対象	以下の条件に該当する者を、ネットモニターより抽出 ・性別・年齢：1971～1974年生まれ男女 ・居住地域：長野県 ・長野県の性・年代構成に可能な限り近くなるように回収を行う。
有効回収数	429
調査実施時期	令和6年7月5日～令和6年7月16日

### 回答者基本属性



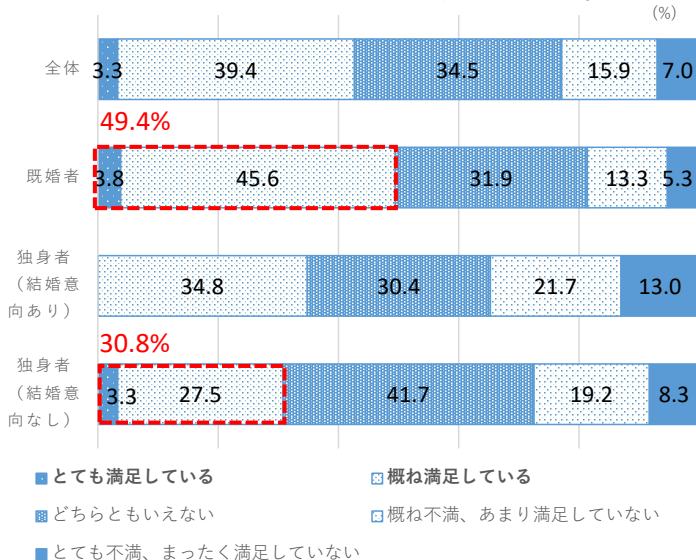
# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

## 【第2次ベビーブーム世代】

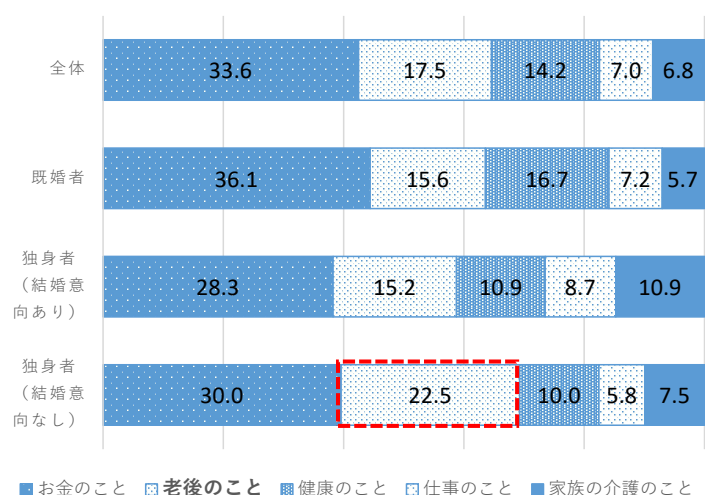
○第2次ベビーブーム世代の生活満足度を婚姻状況別に見ると、既婚者が満足している割合は49.4%、結婚意向がない独身者が満足感している割合は30.8%であり、既婚者の方が満足度が高い結果となった。

○また、第2次ベビーブーム世代の悩み・不安は「お金のこと」、「老後のこと」、「健康のこと」の順に多く、「老後のこと」については既婚者よりも結婚意向のない独身者が悩み・不安と感じている割合が多い。

現在の生活満足度（婚姻状況別）



現在の悩み・不安（婚姻状況別）

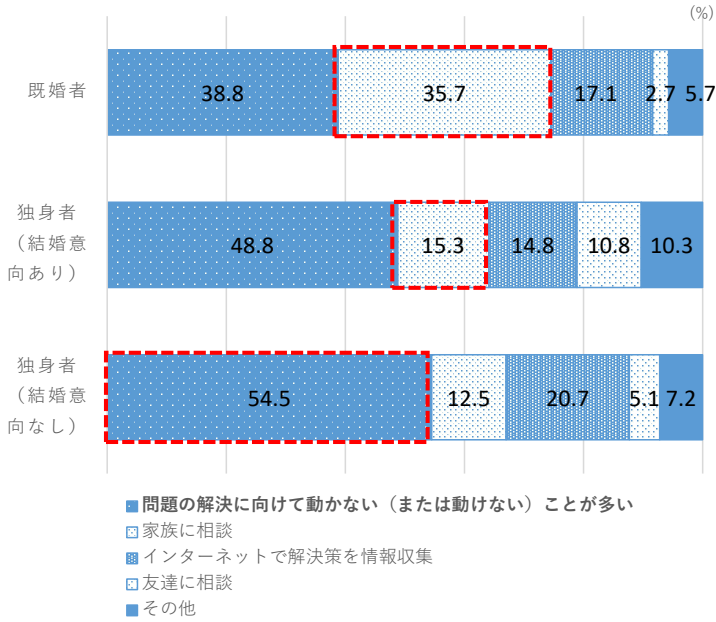


# 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査結果の概要について

## 【第2次ベビーブーム世代】

○老後の悩み・不安の相談先としては、結婚意向のない独身者がほかの属性に比べ問題の解決に動いていない割合が多い一方、家族に相談する割合は少ない。  
 ○第2次ベビーブーム世代が、20代のときに欲しかった支援としては、支援を望んでいない層を除くと「就職やキャリア形成に関する支援」が最も高い結果となった。

老後の悩み・不安の相談先（婚姻状況別）



20代のときに欲しかった支援

